



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行 2022年4月1日

4月 第242号

奈良・人と自然の会



<学びの森に機関車広場とモミジ広場が誕生>

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

## Contents

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	ならやまのジャム作り	7
Monthly Repo ならやま	2	Galleryならやま	8
里山の今（果樹・里山）	3	図録発行の案内	9
自然観察会・レポ	4	行事案内・きのこだより	10
私の家事タイム	5	幹事会報告・編集後記	11
鳥のエッセイ	6		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

コロナ感染者数は漸減傾向を見せてはいるものの、対策の効果を見極めることも難しく決め手に欠け、全く予断を許さない状況にある。社会はウィズコロナを受け入れているようにも見え、それぞれに自己責任のもとで社会活動が営まれている。当会の活動も、マスク、三密回避などの一定の対策をとりつつ継続することとしているが、憂いなく会員の皆さんが参加できる状況でもなく、各自の判断に委ねられている。こうした中、20周年記念祝賀会も見送ることとなったが、記念誌「20年出会い重ねて広がる未来」は関係者のご尽力によって発行される。新たな歩みへの糧の一つになればと思う。

3月末に新入会員歓迎会が予定されているが、新会員の皆さんに改めてならやまプロジェクトの全貌を理解していただくために、4月は各グループでの活動を体験していただくことにした。ならやまの活動は5つのグループで構成されているが、新会員に限らず、お互いに他のグループの活動を理解できるような工夫をしていきたい。

花や草木の息吹が感じられるようになってきた。生き物が動き出す季節がきた。一番いい季節の活動を精一杯楽しもう。相変わらず、鹿の侵入が気がかりだが、自然の中で共生する方策を何とか見出したいものだ。

## 4月の活動特記事項

協働活動：4月7日 アダプトプログラム

新入会員の各グループ体験参加：4月7日から2班に分かれて順次各グループの活動に参加

## 4月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、薪割り、下草刈り ユート：アカマツの森菌根菌の植菌
エコファーム	野菜畑整備（ナス、唐辛子、里芋、さつま芋、カボチャなど）、落花生種まき、水田整備
景観	整備：彩の森・BC周辺草刈り、タケノコ掘り、養蜂巣箱の整備 ビオ：西池整備と水生生物調査、水路整備 花：自転車道沿い花壇、山野草園草取り
パトロール	1～3コースパトロール、観察路整備（階段、ロープ他）、保護植物周辺整備、笹草刈り
果樹	コンポスト棚増設、B地区への階段設置、南側斜面灌木整理、鶏糞引き取り、鹿よけネット補修

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日とも同予報であれば中止



## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

**2月19日(土)曇り 23名+37名(外部)**

シイタケ菌打ちイベントを実施。参加者は児童と保護者37名、当会スタッフ23名。

**2月24日(木)晴れ 63名+1名(実習生)**

トンネル周辺で車と歩行者のニアミスがあったことが報告され、これを警鐘として注意すること。また、BCの焚火で竹の破裂などがあり改めて火元には注意するようにとの話があった。竹林整備について林野庁の視察があったことが報告された。シニア自然大学校から入会予定の東さんが参加。里山Gは、遊びの森イベント後の撤収、楢木の運搬など。エコGは、牛蒡畑作り、ビニールハウスの修理完了など。景観Gは、竹林整備と点検。花班は、山野草園草取りなど。ビオ班は、スイレン池の泥抜き、東池の修復と整備。パトGは、1コースのパトロール、掲示板仕上げなど。果樹Gは、B地区の鹿除け柵の設置、ブルーベリー畑囲いの整備など。

14時30分に終礼を早め、終礼後に有志がひな人形の工作を行った。

**3月3日(木)晴れ 67名**

協働活動としてシイタケ菌打ち、植樹を実施。協働活動に行く途中、完成したモミジ広場にて記念写真を撮った。



里山Gは、協働活動を主導したほか、薪割りなど。エコGは、牛蒡畑作り、チップ入れ、エンドウの支柱立てなど。景観Gは、ならやま大

通り側面の竹林整備など。花班は、葉ボタンの撤去、タマスタレの移植。ビオ班は、東池の土手の改修、西池の泥の排出など。パトGは、四季の丘の看板設置、自然の森観察路の倒木処理など。果樹Gは、キウイの柵作り、ブルーベリー畑の防草シートの除去。



**3月10日(木)晴れ 73名+近畿大学生7名**

春らしい日となった。4月に予定していた20周年記念祝賀会の中止の報告があった。

近大の北川先生と学生の来訪があった。里山Gは、里山林内整備、下草刈りなど。エコGは、種播き、ジャガイモ植付けなど。景観Gは、竹林整備と花壇撤去など。花班は、BC花壇の草取りなど。ビオ班は、近畿大学の7名とタナゴ池、ドジョウ池の調査など。パトGは、2コースの階段整備、3コースパトロール、四阿のテーブルの改修など。果樹Gは、イチジクの剪定、誘引、バークチップコンポスト作り。

**3月17日(木)晴れ 69名**

五月人形作りの案内と参加者募集、新入会員の國方さんの紹介があった。また県より係長他1名が来訪した。里山Gは、薪棚づくり、竹林の整備など。エコGは、エンドウのネット張り、チップ作りなど。景観Gは、竹林整備と里山Gの応援で真竹林の整備。花班は、花壇の草取りなど。ビオ班は、湿地内に水路を作る作業を行う。クラブユートピアはアカマツ林の倒木をBCへ、落葉をエコファームへ運ぶ。パトGは、1コースのパトロール、杭作り。果樹Gは、実りの森に牛糞の受け入れ、杉の枝払いなど。

果樹グループ



里山グループ

◆土ごと発酵

有元 康人

果樹グループも発足して2年が経とうとしています。

長雨や猛暑、鹿の食害などで、果樹の苗木が枯れるなど、当初の計画通りには進んでいませんが、剪定や、適正な施肥により今年度は、ウメなど最高の収穫が出来ました。

ほのぼのの寄金にも、ウメの果実やブルーベリー、クリ、柑橘類等で貢献し、今年度から、ジャム作りに挑戦し販売しています。

実りの森の果樹園の管理の一つとして、斜面の管理の問題があります。ササが生えてくる斜面の利用と景観管理は難しく、現在は放置されています。これから始める、斜面のササの退治の方法を紹介します。

試験的な取り組みですが、斜面を土ごと発酵して根茎ごと発酵分解させようと思っています。



富栄養化でササの生育環境を破壊し退治する方法です。先例として鶏糞や豆腐工場から出るオカラを散布して枯らす方法があります。この先例に近い方法として、牛糞による土ごと発酵に取り組みたいと思っています。臭気の問題と、お茶の生産地や、家畜の数が人口より多い都市では、アンモニア性窒素の地下水汚染がありますが、この程度では自然浄化で環境への問題は無いと判断し取り組みます。

◆木を伐るといふこと!

阿部 和生

新緑の映える素晴らしい季節となりました。終息の気配もありか? この4月、「コロナ禍」にあっても「ならやま里山」は変わることなく緑を育み微笑んでいます。

私たちの「ならやま」は、典型的な里山であり里山林です。居住地域の近くに広がり薪炭用材や落ち葉の採取などを通して地域住民に継続的に利用されてきたところでした。クヌギやコナラなどの落葉広葉樹を主体とする薪炭林は10年~20年のサイクルで「伐採→萌芽・植林→育樹→伐採」を繰り返すところでした。その土地に見合ったサイクルでの循環を繰り返すことにより、一つの群落は、変化に富んだ林相を作りあげ、そのことにより豊かな生物の多様性が生まれ・維持されるシステムなのでした。

「木を伐る!」は、里山林を若返らせ更新する、老齢木による害虫被害を防ぐなど、様々な効用がある施業なのです。もちろん皆伐するとしても、母樹を残したり希少種を保護したり環境に配慮を加えた調査の上の実施です。

自転車道路脇のコナラの巨木が「なら枯れ」「松食い虫」にアカマツがやられるなど罹患木・危険木の処理もありました。混み合った林内の抜き伐りなども実施したことでしょう。元気な林の一部を皆伐もしています。

そのようないろんな施業がこの一帯を更新し活性化させ豊かな生態系を維持・復活させている事を会員の皆さまは既にご理解と思えます。一般の方々からの疑問には、理解を求めするための丁寧な解説が必要ですし、また機会を見つけて広報宣伝することや活動の意義を訴えることも積極的に行なう事が大切でしょう。各種イベントで来訪される方々にも作業の意味を伝える努力が必要です。次の世代へ素晴らしい里山を引き継ぐためにも力を合わせましょう!

自然教室チーム

早春のお楽しみ自然観察会・レポ

冨江 文雄

令和3年度の最後となる自然観察会を3月7日(月)に実施した。オミクロン株によるコロナ感染症の猛威がなかなか収まらないが、ほとんどの会員が3回目のワクチン接種を終えて、まだまだ寒い早春の大淵池公園に集った。今回も講師に田代貢先生をお迎えし、最終的には18人の会員が参加、まだ冬芽がほとんどではあったが、植物を中心に観察した。大淵池は水を抜いていたのでカモ等の水鳥が見られず鳥の観察はできなかった。



まずは公園の駐車場にある植栽でシラカシとアラカシの相異をいま一度確認し、近隣の庭にある大王松の3枚葉に注目、三枚を集めると円形になるのを見て、松の葉は2葉でも5葉でも集めると円形になるとの説明を受けた。公園に入り、道の両側にある植物を順番に観察していった。マンリョウの葉の縁にはバクテリアを包むところがあり、共生する事で窒素の固定を図っている。

アオキの冬芽に着目、葉が中にある花を取り囲んで守っているのを実際に切り取って詳しく観察、カクレミノは異形葉で新しく出てきた葉と成長した葉では形状が違うのを確認した。

もうすぐ開花するコブシの花芽に注目、芽の



元に線が入っているのをルーペで調べた。この様に次々に内容を変えて植物の特性を学んだ。

例えば、一般的に樹木の幹は光合成しないと思われているが、必ずしもそうではない。幹が緑のクスノキがあり、これは幼木であるが明らかに光合成している。成長した幹は勿論光合成しない。葉をライターの火で炙ってみた。ソヨゴの葉はかなり大きな破裂音を出し、ウラジロガシでは油が染み出てくる。タラヨウでは死環と呼ばれる輪ができる。



その他、植物の実(果実や種)に関する説明も実際に解剖して確認することができた。面白いのは、クヌギの幹にクヌギカメムシが卵を産み付けており、それが白く連なっているのが見えた。樹木の看板の後ろにヤモリが越冬しているのが観察できた。このように、約3時間充実した観察会であった。

次回は4月4日(月)奈良公園で。

## 私の家事タイム



倉田 晃

平成14年3月に定年退職をし、この3月でちょうど20年となった。当時はバブル崩壊後の不況下で、銀行や保険会社はどこも不良債権処理に苦勞していた。再就職の話は全くなく、特別な才能もない私は無職の身となった。

灰色の時代が続くかなと思っていたが、幸いシニア自然大学校にご縁を得ることができた。自然の不思議や魅力を学び、感動し、それを人に伝えていく活動に引き込まれ、充実した老後の日々を過ごしてきた。その一環として奈良・人と自然の会にもお世話になり、もっぱら自然観察の分野で楽しんでいる。

定年後の生活では他にこれといって変わったことはないが、家事への関わりについては時々人から「へえっ！」と言われる。

私は朝から外に出て行く日を除いて、毎朝1時間ほどの「家事タイム」と称する時間を設けている。

発端は定年を迎えた日に妻から「定年までご苦勞様でした。どうぞゆっくりしてください」の言葉に加えて、「だけど私には定年はないのだろうか」のつぶやきだった。

「お前さんはその能力を認められて終身現役を望まれている。すばらしいことではないか。私は会社勤めこそ終わったが、引き続き年金や資産運用による安定収入の確保という重要業務がある。これは終身にわたる仕事だ」と言って何となくその場を済ませた。

ただ、そうはいうものの自分だけフリーにな

るのは後ろめたく、それまでは休日に草取りをする程度だった家事の分担を増やすことにした。

「外に出かける日を除いて、毎朝1時間程度家事を担当することにしよう。でも日々の家事の分担に組み込まれるのは気が重いから、お前さんがあまりしないことや気が付かないことをする」ということで、食事の準備や後片付け、掃除・洗濯、ゴミ捨て、風呂掃除などはしないが、

\*草取り・植木の剪定などの庭や畑の手入れ

\*窓ガラス・網戸・雨戸・電灯・エアコンの掃除、床のワックス掛け

\*ガレージやベランダ、物置、下水管、水路、車やバイク・自転車の掃除

\*家の内外の補修、機材の修理

\*その他障子の棧、窓のレール、棚の上、機材の置かれた奥など埃がたまりそうなところを月1回のペースで掃除

ざっとそんな内容を引き受けることになった。

それに基づき、「毎月すること」、「3か月に1回はすること」、「半年に1回はすること」、「年1回はすること」に分類して、1年間の分担表を作り、以後20年間続けている。

もっとも、経済環境の変化で利息配当収入がかなり減少し発言力が弱くなってきた。それで家庭内の力関係も微妙に変化して、「風呂の掃除」や「月2回程度の夕食当番」も現在は担当するようになっている。

これが「私の家事タイム」の内容である。世間一般に比し分担が多いのか、平均的なものか、まだまだ足りないのかは分からない。ただ、

\*正月が来るからと言って特別に掃除をする必要がないこと

\*埃の溜まっている所が少ないこと

など、まあまあ良いのかなと自分では思っている。妻の評価は聞いたことがない。

## 鳥のエッセイ

ご存知「<sup>シジュウカラ</sup>四十雀」と  
その仲間たち



小田 久美子



シジュウカラの♂は胸の黒いネクタイが太く、♀のそれは細いので雌雄の違いが良く分かりませす。皆さんもご存知の基礎知識です。

他日「ダーウィンが来た」では、シジュウカラが子育てするのを視聴者が投稿する番組があり、郵便受けを乗っ取られ、隣にもう一つ郵便受けを作る人、戸袋や植木鉢に巣作りされ遠慮がちに温かく見守る人々の映像を集めた楽しい番組がありました。

私の友人の庭にシジュウカラの卵が産み付けられて、何故かそのままになったのを頂きました。13個ありましたので大阪自然史博物館に寄贈しました。(写真)



鈴木俊貴博士は、京都大学の学生の頃から、

鳥の研究を続けていて、長野県軽井沢に春と秋の2シーズン、年間3~4ヶ月滞在し、その14年以上研究から、特に、シジュウカラの鳴き声に注目し、彼らが言葉を使っていることを発見しました。この事は世界も驚く発見でした。タカが来ると「ヒーヒー」、カラスが来ると「ピーツピ」、蛇が来ると「ジャージャー」鳴いて仲間知らせると云うのです。子育ての時、タカの際は「巣から出るな」。へびの時は「直ぐ外に飛び出せ」と雛に教えるのです。

驚きは人間の会話のように文章を駆使し、「注意して集まれ!!」等その数175以上と云うからビックリです。

冬、カラ類(シジュウカラ・ヤマガラ・ヒガラ・コガラ)はゴジュウカラ・エナガ・メジロ・コゲラ等と混群を作ります。餌が探しやすく、天敵を速く見つけられると云う利点があるからですが、それぞれは自分の鳴き声で鳴いています。

例えば人間が母国語で「へびだ!」「スネークだ!」と云っても通じる様に、彼らも他の種が「へびだ!」ということを理解するのです。

なんと、リスも近くで警戒音の恩恵に浴して安心して地面の木の实を探しています。

春になると混群は解消して繁殖の季節を迎えます。それぞれのラブコールが私たちを楽しませてくれる季節です。

5月頃そろそろ、それぞれの子供たちが巣立ちして、幼稚園の様に異種が集まって来ます。親たちが蛇を見て「へびだ!」と鳴くとそれぞれが「へびだ!」「へびだ!」と同じものを見て自分の鳴き声でお勉強していくのです。

博士の観察では、寒い冬には仲良く行動していたのに、小鳥たちは餌を獲り合ったり、騙したりする様子も撮影されていて、結構、人間様顔負けのサバイバルをも生きているようです。

NHKの「ダーウィンが来た」では、違うバージョンで何度も放送されましたので、ご覧になった方も多いかと思いますが。

又放送されると思いますので是非見て下さい。

ならやまのジャム あれこれ



ジャムのレシピ



岩崎 雅子

辻 敏美

梅ジャム、柚子ジャム、レモンジャムにグミ、いちじく、ブルーベリージャムと収穫量は少なくとも、とりあえずジャムに仕立てよう！こんな、手間ひまかかかことを発案するのはなんと、バカみたいなお人好しの集まりではないですか？（果樹G うちあけ話）

それでも、買っていただくとなれば、気合を入れて、試行錯誤、お互いの情報交換で砂糖は、白？ 種子島洗糖？ 糖質制限の甘味料？ 等々各自の思い入れがあります。

瓶は1個110円もするし、素人のジャムでは高く売れないし。それで空き瓶を戻していただければ、100円お返ししますということにしました。

初挑戦のジャムは完売で、きっと皆さんに喜んでいただけたと思っております。

2年前に挿し木をした大王レモンが見事な実を付け、大歓声をあげたのです。挿し木名人がいるおかげです。このレモンは皮をピールにします。中身はもちろんジャムに。大人の味です。鹿の被害でおいしいレモンの幼木は、葉も幹も食べられて痛々しいですが、復活すれば次期のジャム作りに力を与えてくれそうです。

作り手で、味と見かけは毎回違いますので味比べをされますように。

お買い上げありがとうございます。



【梅ジャム】

材料：完熟梅・2キロ

砂糖 ・茹でてこぼして種を取った梅の60~70%の重さ

作り方

1. 完熟梅をきれいに洗いキズや黒いところをとる。
2. 梅がかぶるくらいの水を入れ、弱火で15分灰汁を取りながら茹でてそのままさます
3. 冷めたら手で握って種を取る。
4. 果肉の60%~70%の砂糖と果肉を入れ30分位灰汁を取りながら煮る。
5. 熱いうちに、煮沸消毒した瓶にいっぱいまで入れる、逆さにしてさます。

【柚子ジャム】

材料：柚子・2キロ

砂糖・1.2キロ

水 ・200ml

作り方

1. 柚子はよく洗いキズや黒いところを取る
2. 横半分に切りしぼる。種はとろみ付けにお茶パック2つ分取っておく。
3. 果汁を絞り、薄皮をもぎ取りざくざりにする。外皮はできるだけ細かい千切りにする。
4. 鍋に外皮とかぶるくらいの水を入れ、火にかけて3分茹でて、ザルに取る。これを3回繰り返す。
5. 洗った鍋に果汁、外皮、薄皮、水、砂糖、種を入れ、強めの中火で8分煮て種を取り出し、弱火で5分煮る。

# Gallery ならやま



透明水彩 B5 「大沢の杉」 梨本 哲  
(大阪府島本町大沢 大阪府天然記念物)



写真 大和文華館の桜 坂東 久平



梅の小枝のお雛様 桜木 晴代



お雛様 石堂 純子



お雛様勢ぞろい 鈴木 末一

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

会員の皆さま方へ

## 図録「見つけよう自然のなかまーならやまの木々たちー」発刊のご案内

春爛漫、桜前線が日本列島を縦断中となつてまいりました。新型コロナウイルス感染症は収束する気配が感じられない中ではありますが、会員の皆さまには健康にご留意されてお過ごしのことと拝察申し上げます。

本会は2001年9月に呱呱の声を挙げて以来20年の歳月を積み重ねてきました。また、活動拠点である歴史的風土と自然環境に恵まれた「ならやま里山林」は、2007年に奈良県より景観形成保全事業の委託を受けてから15年の節目を迎えることができました。そして、2019年に発行しました「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」の続編として2020年から編集に取り組んだ「見つけよう自然のなかまーならやまの木々たちー」が、この記念すべき節目に発刊の運びとなりました。



本会の活動は社会のニーズに合致した里山創生を目指しています。ならやま里山林は市街地にありながら、植生の豊かさで稀有な存在です。恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐのが私たちの使命です。図録の作成は、森林環境教育にとって有効かつ多面的な活用ができると考えました。「すべては次世代の子どもたちのために!」「里山で遊ぶ 守る つながる」をスローガンにしています。子供たちが自然のあり方に接し、自然の不思議、自然の魅力、自然の大切さを実感するきっかけになれば、さらには私たち人間も自然の一員であるとの認識をより高めてくれることを願っています。

小学生が親しめる図録にするため、前編と同じく図録編集委員会を立ち上げ、表紙デザインを隣接する佐保台と佐保川小学校の児童と会員のお孫さんから募りました。解説文に用いる教育漢字への配慮、用語の注釈、校閲などに会員有志の方々の知恵と経験を活かしていただきました。準備委員会の立ち上げからは足かけ3年、委員会に切り替えてからは2年という一大プロジェクトでしたが、ようやく3月末に完成させることができました。プロジェクト完遂には前編同様にトヨタ環境活動助成プログラムから志金(資金)による多大なるお力添えを賜りました。

ならやま里山林 16haという地域限定ではありますが、類を見ない図録だと自負しています。

つきましては、ご希望の方に以下にて提供させていただきたくご案内申し上げます。

- ・ 会員お一人につき10冊までとし、1冊は300円、2冊以上については1冊あたり500円の賛助金をお願いいたします。
- ・ 郵送をご希望の場合には、郵送料着払いにて郵送させていただきます。
- ・ 賛助金お支払い方法:現品と引き換え(郵送の場合は振込用紙を同封いたします)
- ・ 申し込み方法:別紙同封の申込書に記入のうえ、ならやまにお持ちいただくか、千載会長あてにメールまたはFAXにて送信をお願いします。
- ・ 申し込み締め切り:4月末にて一旦締め切りとさせていただきます。

令和4年4月1日

図録「見つけよう自然のなかまーならやまの木々たちー」

編集委員長 鈴木 末一

# 行事案内

自然教室チーム 春爛漫の奈良公園



## 自然観察会（桜見物）のお知らせ

辻本 信一

いまなお続くコロナ禍のなか、季節は巡り待ちに待った桜の季節到来です。

「風雨順次」の言葉通り、季節通りに季節が巡り、辛く悲しい出来事があったとしてもそれに屈せず、何の気負いもなく、大自然は常にありのままの姿で私たちを迎え入れ、あたたかく包みこんでくれます。これが自然の逞しさともいうのでしょうか？

今年も皆さまといっしょに四季折々の自然を楽しみ、自然から知恵と勇気を授かりたいと思います。

新年度を迎えての自然教室チーム自然観察会の第1弾は、恒例の奈良公園での桜見物です。

今年は樹齢170年の桜の銘木「川路桜」との出合いを期し、佐保川沿いで散策を加え下記要領にて実施致します。

他にも、エドヒガン、コヒガンとともに河原では可憐な春の野花の競演が期待されます。

皆さまお誘いあわせのうえ奮ってご参加ください。

1. 日時：4月4日（月）午前9時～正午予定
2. 集合：近鉄新大宮駅北側改札口
3. 持ち物：昼食前に終了しますので飲み物程度。  
有ればルーペをご持参ください。
4. 観察ルート：新大宮駅北側大宮橋を起点に桜並木に沿って佐保川沿いを東にそぞろ歩き、奈良女子大経由東大寺を目指します。  
佐保川、奈良公園を中心に春の好日のんびりと桜見物を楽しみます。
5. その他：事前の申し込み不要  
雨天時の中止は当会申し合わせ通り

担当：辻本



きのこだよ!

冬虫夏草

高間 祥子

今回は、3月から5月頃にアブラゼミ、エゾゼミなどの幼虫から生える「冬虫夏草」の一種、オオゼミタケ（大蟬茸）をご紹介します。広葉樹林や針葉樹林の地上で、比較的多湿でひんやりするところに発生することが多いようです。タンポ型で、地上部は高さ4~7cm、頭部は径6~9mm、こげ茶や褐色、黄土色などの円形または楕円形です。柄は黄褐色で根元が細くなっています。

「冬虫夏草」というと、東洋医学の生薬として珍重されてきたものを思い浮かべられたでしょうか？ 実は、昆虫やクモなどに寄生し、体内に菌系の集合体である菌核を形成して、その頭部などから子実体を形成したきのこの「総称」です。漢方で薬効があるとされているのはチベットなど寒冷高地のコウモリ蛾の幼虫に寄生した「シネンシス冬虫夏草」だそうです。

それでも「オオゼミタケにも何かしらの薬効があるかもしれない」と思われたら、タンポ型のきのこを探して、掘って掘って地中のセミの幼虫を見つけてください。食毒不明ですが、以前、焼酎に浸けて琥珀色になったところで飲んでみたことはあ

りません。さすがにセミの幼虫付きのきのこは食べられませんが……もし薬効があったら、ぜひお教えください。



